

アカデミックフェス 事後レポート

企画名：産学連携による社会実装と SDGs

アイデアソン ～ビッグデータ・AI で考える SDGs～

(株式会社クリーク・アンド・リバー社 企画協力)

時 間：13:45～18:10

会 場：アカデミーコモン 2F ROOM-E (A1 会議室) ROOM-F (A4 会議室)

登壇者：【産学連携による社会実装と SDGs】

ーオープニングセッションー

- ・明治大学 学長 土屋恵一郎
- ・グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 代表理事 有馬利男
- ・株式会社朝日新聞社 マーケティング本部長 石田一郎

ーセッション①ー

「明大の研究で 17 の目標を達成しよう！～明大 SDGs Map の作成～」

- ・SDGs-SWY 共同代表 高木超、和田恵
- ・明治大学学部代表ゼミ

ーセッション②ー

「未来につながる暮らし方を考えよう」

- ・明治大学 理工学部教授 永井一清
- ・株式会社 CO2 資源化研究所 代表取締役 湯川英明
- ・横浜市 温暖化対策統括本部環境未来都市推進課 課長 高橋知宏
- ・株式会社フジテレビジョン CSR 推進室 部長 木幡美子

【アイデアソン ～ビッグデータ・AI で考える SDGs～】

- ・明治大学 理工学部教授 林 陽一
- ・未来技術推進協会

開催概要：

アカデミックフェスのコンセプトである「魅力ある社会をつくるための明治大学の次の一手」について、魅力ある社会＝SDGs が達成された社会としたときに、その実現に向けて取り組むべき、明治大学の新しい「知」の在り方を考えます。

SDGs への貢献に向けた課題を研究者、企業担当者、学生、メディア、公的機関等、多様な視点の登壇者と共に議論します。

開催内容：

【ルーム E】SDGs アイデアソン

未来技術推進協会×朝日新聞社に企画協力をいただき、テクノロジーにより社会課題を解決するためのアイデアソンを行いました。

学生から社会人まで幅広い方にご参加いただき、私たちの身近にある社会課題について共に理解を深め、多様な参加者の方に刺激を受けながら課題解決を目指し白熱したアイデアソンとなりました。

【ルームF】SDGs セッション

オープニングセッションでは、大学、経済会、メディアのそれぞれの立場からの SDGs の取り組みの必要性や、今後の連携の可能性について意見交換を行いました。日本がこれからさらに発展しつつ SDGs に取り組む上で、テクノロジーの開発・発展が必要だが企業だけでは社会実装に限界があり、その点をアカデミックと連携するべきという意見や、メディアもソリューションジャーナリズムの視点が必要だとする貴重な意見を聞くことができました。

セッション①の明大 SDGsMap の作成では、明治大学の 8 つの学部の代表ゼミが参加し、それぞれの研究内容を発表。その後お互いの研究を活かして明治大学として、どのように SDGs に貢献できるかを学生同士でディスカッションしました。

その結果、目標 11「住み続けられるまちづくりを」を軸として、“多様なつながりがあり、安心して暮らせるレジリエントなまち”の実現に向けて、文理の垣根を越えた総合大学の強みを生かせるのではないかという発表につながりました。

発表を受けて、土屋学長は「これからは総合大学ではなく、混合大学として、常に多様な価値観を掛け合わせた価値を創造していこう」と学生たちにメッセージを届けました。

セッション②のパネルディスカッションでは、大学・企業・自治体・メディアの多様な登壇者が集まりそれぞれの取り組みをお話していただきました。立場は違っていても“脱炭素”などの同じキーワードを扱っている等、新しい発見のある内容となりました。

またそれぞれの立場で研究された技術や取り組みをメディアの力を使って、世の中に発信することの重要性についても改めて考えさせられるセッションとなりました。

以 上